

第3回安来市創生総合戦略推進会議

平成27年8月21日（金）午後2時～
安来中央交流センター 講義室

1. 会議成立報告

2. 議 事

(1) 安来市人口ビジョン（案）について

(2) 安来市総合戦略（案）について

意見交換

人口減少への対策、地域の活性化について

その他

1. 会議成立報告

15名の出席となっており、「安来市創生総合戦略推進会議設置要綱」第6条第2項の規定により本会は成立。

2. 議 事

(1) 安来市人口ビジョン（案）について

事務局による説明（資料①）ののち質疑。

（会長）

人口ビジョンについて質問意見等はないか。

（委員）

2040年から出生率が人口置換水準を達成する仮定でシミュレーションができているが、その後も0.1万人ずつ減っている。ほぼ水平になるのは何年くらいか。

（事務局）

2.07になり、なおかつ転入転出が±0にならないと最終的には水平にならないというのは論理的な話であって、2060年までは2040年に置換水準になったとしても、少子高齢化が進んでいる関係でお亡くなりになる方がまだ多いのでこうなる結果となっている。いつの時点で水平になるのかは、かなり先にならないと横ばいにならない。

（委員）

2014年度のUIターンが28名で、4.5倍で年間126名となっているが、20代単身が何名、30代何名というように具体的な目標を立てたらいかがか。

（会長）

年間126名は単に3万人にするためにというところから出てきていて、その中でUIターンがどれだけの年齢構成になるかということは、これは現在28名の

U I ターン者があるが、そのU I ターン構成と同じということにしている。実際、施策のとりようによっては、年齢構成が変わってくる可能性がある。

(委員)

できれば若ければ若いほどいい。

(会長)

現在、提示されている目標というのは、合計特殊出生率 2.07、U I ターン者 126 名、これが理論的なものである。それが 40 年後に、2060 年に 3 万人を維持するための条件という設定である。

(委員)

4.5 倍というのはあくまで 3 万人ありきの中でのものか。

(会長)

3 万人というのを一つの目標値として、それを達成するためにまず 2.07 という出生率を設定して、それでは足りないので 126 名のU I ターン者が毎年あるという設定である。

(委員)

なにか理論的な根拠があって、4.5 倍になっているということではないか。

(会長)

ない。ただの計算である。

(委員)

その 3 万人というのは、市政であったり、市の運営であったり労働人口であったり、納税人口であったり、そういったものを考えた上での設定なのか。あるいはこのままだと 2 万人になると、今 4 万人の間をとって 3 万人という数字が出されたのか。最低このぐらいの人口がいるという根拠があっての 3 万人か。

(会長)

私が聞いているところでは、これだけいなければ税収が安定しないとか、仕事成り立たないとか、そういうことなく 3 万人を割りたくないという示威的なところが強いと聞いている。

(事務局)

財政的にこれだけの人数が必要だとか、そういったことから試算するのは難しい。市としての思いは 3 万人を切りたくないというところで設定している。

(会長)

総合戦略の中では、そういった合計特殊出生率 2.07 はあくまで国から求められている数字。こちらが定めるべきなのは 2060 年のところでの人口目標ということになる。これが 3 万人で適当かどうか、皆さんでご議論いただきたい。

(委員)

I U ターン者が現在のままでいくと 2.6 万人ぐらいの人口になる予定だと思う。

I Uターン者が 4.5 倍にならなければ。2.6 万人くらいになるとある調査でいていた。

(会長)

2.6 万人が正確かどうかはわからないが、U I ターン者が今のままの推移でいけば必ず減る。2.07 をもっと大きな数字を達成すれば別だが、3 万人を割っていく。

3 万人という数字について皆さんのご意見を伺いたい。

(委員)

出生率が 2.07 でU I ターンが 4.5 倍というのは、単純に考えてもこれからの目標としては大変大きい目標であると思う。3 万人が目標として適正かどうかを考えた場合、市としては 3 万人を絶対に切りたくないという前提があるならば、目標はもっと大きいほうがいいのではないか。目標をもっと大きく持って、最終的に 3 万人を超えるところで落ち着くのであれば、いずれにしても大変厳しい目標に安来市、市民が総合戦略の中で向かっていく目標としては、もう少し大きい目標をあげるべきではないかと思う。

(会長)

それは 3 万人を達成しようと思うと、たいてい目減りするからもう少し目標を高くしておいた方がいいということか。

(委員)

そうだ。

(会長)

それでは委員はどれくらいの設定がよいと考えるのか。

(委員)

出生率よりやはりU I ターンの方だ。企業を誘致するとか、仕組みを作って、3.5 万なり、3.2 万人なりといったところでいいのではないか。

(委員)

今の方の意見に基本的には賛成だが、これは目標のフォローの仕方の問題だと思うが、いつも 2060 年の数字を常に目標にして、目先の目標を追いかけることができるのか。出生率を 1.6、1.8 とか 2.07 に設定してあるが、その時期がずれるとシミュレーション通りにならないわけだから、その辺がきちんとフォローできるかどうかにかかっているのではないか。企業の誘致、別の方法もあると思うが、それより長い先の目標を常に忘れないやり方も重要だと思う。

(会長)

その通りだと思う。あとの段階で提案しようと思ったが、出した計画をフォローしていく、見守っていく、あるいは見直していくという機関が必要ではないかという気がしている。

(委員)

当然、人口が減ると市民サービスがコンパクトになっていくだろう。雇用も少なくなっていくだろうと思う。本来であれば今の人口を維持するのが大目標、ただそれは物理的に難しいということで少しずつ減っていくだろう。できれば私も3.5万人くらいで設定されたいと思う。この「UIターン等」の「等」は、私の中ではどの地域団体も同じことをしていると思う。であれば安来独自として例えば国外から入れるとか、そういうことも含めて独自性を持った考え方をしなければいけない。まだまだ考える余地があるのではないかな。

(副会長)

目標値は私もよくわからないが、ただ国は今1.2億人いて45年後に1億人を目指している。つまり8割ぐらいの減少にとどめたいということである。安来も全国と同じくらいにするとこんなものかなと思う。

確認したいのが、年間126名というのは純粋にUIターン者を招くということではないのか。UIターン等による転入者および転出抑制の目標と書いてあるので、転出を抑制する人数も含まれているということか。

(事務局)

現実にはUIターンで転入してくるケースだけではなく、これまで住宅新築を理由に転出している人が転出せず引き続き安来に住み続けるというところも当然加味されている。

(副会長)

ということは転入、転出抑制で126ということか。

(事務局)

UIターンで入ってこられる方、安来に生まれ育った方たちが出ていくことも抑制していかないとなかなかこの数字にならない。

(副会長)

それは合わせてということ・・・

(事務局)

UIターンとしては126名だが、当然、社会移動があるのでその部分を抑制していかなければならないということを謳っている。UIターンとしては126名だが社会移動の抑制もプラスαしていかないとならない。

(委員)

さきほど安来の人口4.2千といわれたが、正確に言うと3.9万人、4万人を切った。年間2千人亡くなって、自然増が追いつかず、大体毎年千人くらい減る。そうすると・・・今の現状から行けば大変な減になるので、目標3万を保つには大変な努力が必要だと思う。安来市の女性は晩婚が多い、それから結婚しないと子ができないと、それから出る人も多い、だから余程努力して3万人・・・基礎

的なことをやっていかなければ自然増と、そういう数字が毎年千人ずつ減っているの、合併時が 4.7 万人確かいたのが、今 4 万人を切ったので大変な状況だと思う。だから、目標を実行するということはなかなか大変な力が・・・戦略を考えると、なかなか・・・

(会長)

言われる通り大変な目標設定だと思う。その具体的なことについては、次に説明があるまち・ひと・しごと創生総合戦略に書いてある。このあと説明を受けて、協議していただくことになる。確かに相当な努力、皆さんの意識を高めていかなければ、なかなか達成できない数字だと思う。

(2) 安来市総合戦略(案)について

事務局による説明(資料②、③)ののち質疑。

(会長)

議論のカギとなるところをまず副会長に説明いただきたい。

(副会長)

まず確認したいのが人口ビジョンと総合戦略は別に作らないといけないというのは、国の指示か。別冊にしないといけないのか。

(事務局)

人口ビジョンを作ったうえで総合戦略を作るというのが、国の方が出している手引きにある。自治体によっては別冊で作っているところもあれば、総合戦略の一括りにして第 1 章が人口ビジョン、第 2 章が総合戦略の具体的な中身といった構成をとっているところもある。

(副会長)

別冊にするかどうかというよりも、目標と施策のつながりをもっとしっかりと意識させるような作りにした方がよい。現時点では別冊にしているせいもあって、ちょっと見えにくいので、たとえば 2P 基本的な考え方に課題が書かれている。基本目標のところも 6P 以下に出てくるが、人口ビジョンとのリンクをもっとはっきりとさせたページがあるとよい。

もう一つは、目標値は簡単に言うと人口を増やすことだ。人口を増やすということについて言うと、例えば結婚を推奨し、子供を産んでもらうということは比較的、直接的な施策にあたるが、学校教育を充実させるとか、安全・安心な地域づくりとかは比較的遠いものだ。あまりに遠いものはここから落としてしまうということがあると思う。もちろん国でも何でもいいその他の的なものが入っているので、入れなければいけないのであれば、入れないといけないのかもしれないが、それがわかりづらくしている。総合計画でもそこら辺のことはケアできるわけで、落とすという手はある。落とすにしろ、落とさないにしろ、直接的なものから間

接的なものまでいろいろなレベルがあるので、今のだと並列になっていてわかりにくい。そこをもう少しわかるような、全体が見えるようなものがあるといいと思う。これは会長が言われた今後どう検証するかといったことにもかかわるので、もう少しわかりやすくしたほうがよい。

(会長)

その章立てについては皆さんでまた議論していただきたいと思う。総合戦略と人口ビジョンのリンクのところはもう少し工夫していただきたい。

総合戦略についての質問・意見はないか。

(委員)

人口ビジョンのときにも言ったが、2060年の目標値をここにも書くべきだと思う。ポイントとなるのは出生率が1.8になる年と、2.07になる年の人口であるのか出生率であるのか、その辺りのポイントを明確に書いて、それとここに書いてある・・・目標の社会移動のプラスとリンクするはずなので、その辺りのところを明確に目標値の関連として書くべきではないか。その2060年の関係で・・・わかりやすく・・・明確になると思う。

(会長)

今の意見は副会長の意見と基本的には同じで、人口ビジョンと総合戦略とのリンクを見えやすくする、明確にすることを工夫していただきたいということだ。

(委員)

このビジョンを要望としては是非とも市民の皆さんに配布してほしい。というのはこれまで人口が減るということを考えてもいなかったと思う。市民の皆さんにこのままいくと人口が2万人に減るということを知ってもらうのが、まず大事な一歩だと思う。一家に一冊配っていただきたい。とすると一つにまとめた方がよいと思う。今後の安来をどうするんだということを考えるときのバイブルになるのではないか。もう一つはいろいろな自治体と同じようなことをしている中で、安来市独自というかオンリーワンの施策が見えないと思っている。松江、米子に挟まれた地域性であったり、産業であったり、あるいは歴史であったり、そういったところを中心とした人を呼ぶような施策、あるいはオンリーワン、全国にないような施策が少ないと感じている。

(会長)

目玉となる戦略というか、市長がマスコミに発表するときに「安来市はまずこれをやるんだ」ということでそのあとずらずらと戦略が出るというのも私は必要だと思う。なかなか難しいかもしれない。

(委員)

副会長の意見と似ており、この総合戦略を作られて、事務方としては全体を網羅して出していると思うが、では安来市として何を一番強く皆さんに訴えていく

か、もう少し濃淡強弱がほしい。私は会社に入って 20 数年、10 回以上引っ越しを繰り返しているが、子どもを育て、家族と暮らしているとやはり魅力的に映った自治体は、子育て、住環境、もちろん地域性の問題はあるが労働環境、この 3 つに尽きるのではないかという気がしている。安来市として、この一手、この施策に賭けるんだという強いメッセージ性を出すべきだと思う。職業柄どうしてもそういう形になりがちだが安来市のカラーが見える、安来市ならではのことが何か考えられないかということで何かメッセージ性がほしいと思う。

(会長)

安来市ならではのメッセージを含めて、どなたかアイデアがあれば。

なかなかすぐに出ないことかもしれない。全体を通じてでも何かご意見を伺いながら、よいアイデアが出るのを待ちたい。

(委員)

人口ビジョンと総合戦略の両方にかかることだが、・・・総合戦略で一つひとつの戦略、フォローを検証・・・積み合わさって目標・・・3.5 万人となる計画を立ててその 8 割が達成できたら 3 万人になる・・・そのために市民の皆さんといろんなことをやっていきたいと思います・・・思いながらも一点だけいかがかと思ったのが、広域連携の数値目標 (9P)。圏域の人口の目標値があるが、安来が減っても松江が増えると達成できるので判断基準を変えたほうがよいと思う。

(会長)

今の広域連携の数値目標をどういうふうに

(委員)

具体的にどうしたらいいというのはないが、安来が減って、松江が増えて達成できたような場合は、安来にとってはなんにもないだろうと感じる。

(会長)

この目標値を設けることに意味はない、別な観点を持つべきだということ

(委員)

今の広域連携のことだが、行政単位でやっている総合戦略というのは少し疑問に思うところがある。それぞれの行政が競争して人を増やそうという努力をしている中で、広域で全体的に増えたらいいのではないかという目標を出すとぶれてくる気がする。広域連携は大事なことだが、安来独自で目標に向かうべきであって、全体的に増えたらいいというのは、別枠にはなっているが、違和感がある。もう一つは基本目標 4 だが、この総合戦略を成功させるうえで一般市民、民間の力、行政の力とか、ムードを一体化させて全体で目標に向かっていくという機運が高まらないと 45 年後の 3 万人、達成できないと思う点に鑑みると愛着度 70% は低い。もっと上げるべきであって、100% に近くならなければならない。せめて 80% くらいはほしいと思う。

(委員)

先ほどの安来市の愛着度ということに対し、数年前のゲゲゲの時に大勢来られた。千人切るような大塚に 20 万人くらい。その時に私もボランティアの一員をやっていた。来られたお客さんが安来は本当にいいところだ。観光バスで来られたお客さんを大分案内した。その時に何と安来は俗にいうおんぼらとした街で、ここに住みたいという人がたくさんいた。何がいいかといったら、とにかくインターを降りて、大塚に来るまでになんとか素敵な感じで受けた。ここに住みたいがどこかいい場所がないか、多数言われた。例えば空き家とか残念ながらその時はお世話できなかった。全国から来られた、遠くは北海道から九州まで来られたなかで、大体いいまちだと。何がいいかといったら、一步安来のまちに足を運んだら、ものすごく感じがいい。そこら辺が安来独自の戦略の参考にされたらどうかと思う。

(委員)

総合戦略だから、言い方は悪いが各市町村の戦い、人口争奪戦みたいなものだから、広域的な人口目標をあげなくても安来市自体の目標でいいと思う。逆に言えば、先ほどの愛着心の話もあったが、これはやはり子供のころから安来にどれだけ愛着を持つかという気持ちを育んでいかないと大人になって愛着心を持つという話では多分駄目だと思う。学校教育の中でどれだけ安来市に対して愛着心を持てるかという刷り込みをしてほしい。そういったことも一つの戦略の中に盛り込んでほしい。具体的なことになるが 12P の学校教育の充実・ブランド化というのは、特に戦略の中で際立って挙げていかななくても、これは住みやすいまちという部分の中に入っていってもいいだろうし、これは一つの施策であってこれで人口が増えるものでもないと思う。確かに教育をすごく重視している親にとっては、英検 3 級がとれるとか 2 級までとれるというものを一つの魅力があって安来市に入ることもあるかもしれないが、そういうことは観点が違う気がする。ただ放課後支援の充実については、地域が一体となった子育て支援の中に入るべき項目ではないかと。教育云々ではなく、ここにボランティアの方がいっぱい携わって、放課後の子供たちをどう見守ってやろうかという体制をとっている部分だと思うのでこれについては教育の充実ではなく、子育て支援の部分に入る項目ではないかという気がしている。是非その辺は検討いただきたい。もう一つ子育て支援の中では、未就学児であるとか小学生であるとか比較的小さい子供の支援がメインになっている。やはり中学生、高校生、あるいは高校を卒業してもなかなか就職ができないような若年層に対する部分の支援も盛り込んでいただきたい。あるいは不登校児童であるとか、問題行動を起こす児童であるとか、そういう子供たちも、あるいは親もそういう支援も一緒になって安来市が担っていく体制があれば、まだ IU ターンの方でも、あるいは子供に問題があって島根に移り住んでみたい

という方も体制がとってあれば入り込みやすい。結構こういう問題は、私はボランティアをやっている関係でたくさん聞いているが、まだ根底にいっぱいある。他県でもそれを非常に悩みを持っておられて、そこに住みたいけど住めないから他所へいくという方もたくさんいらっしゃるので、そういう支援も考えていただきたい。それから人口の数値目標のことだが、3.3 万、3.5 万という目標値を高いところに上げていかないといけない。私は生まれて 60 年近く、一回も外で住んだことがない。安来の中から出たことがないので、特別安来が詰まらないまちとも思わない。いいまちだと思いながら 60 年近く住んでいるので、あまり違和感がないが、やはりそういうことで外に出られる方もたくさんいらっしゃるので、また戻ってきたいというために今いろいろ施策を打つわけで、それであれば 3 万人を目標とするのであれば、3.5 万人、3.3 万人という目標値を挙げていきたいと思う。個人的には安来市として 3 万人を切るというのは市としてイメージがなくなるという思いがある。

(会長)

委員のご意見は、12Pに関わるところで(3) 学校教育の充実・ブランド化という項目があるが、その中でも特に放課後支援の充実プラス若年層の就職の支援なども含めたような支援を、子育て支援の項目に移してはどうかということであった。

(委員)

人口目標の上乗せも一つの手だとは思いますが、それより重要なのがフォローの仕方だと思う。上乗せよりもいかに細かく、いかにしつこくフォローするかというのが、一番効果がある。もう一点、13P基本目標2のKPI:製造品出荷額1,600億円、平成25年の実績が1,635億円で現状維持のために振興するという目標で本当にいいのか。もっと別に指標はないのか。安来市の製造業の労働生産性は全国レベルより低い。労働生産性を上げるような方向、支援がよいと思う。

これをみると振興策が現状維持みたいに見えるので、あまりにもなんか何をやるんだというのが見えない。

(委員)

私は鉄鋼業出身で、逆にこのような数字を出されると、安来市として例えば安来市は特殊鋼の特区にすると、ある程度税金を免除すると、雇用も例えば日立に安来市の住民が雇用できれば、ある程度税金を免除するみたいに見えるように見えてしまうが、そういったことで確約されていない。その中でこういった数字を出しているものかと私は疑問に思った。安来市の特殊鋼関連産業をはじめとするものづくり産業を振興する、製造品出荷額1600億というのが、これは企業の話も含めてだと思うので、逆にそういった裏付けを急に、私も日立の出身なもので、急に景気が悪くなったときに申し訳ないという思いもありながら、確約できない部分も

あるのではないか。この数値はなかなか出せるような数値ではなかろうかと思う。

(委員)

安来をいかにいいところか、安来市でおりたい、住みたい、U I ターンしたい、安来はいいところとPRする、安来全体のパワーを一つにして、安来全体を盛り上げて、生活したい、子を育てたい、これが最終的なことだと思う。とにかく安来はいいところだと、数値的なこともいいが、安来に住みたい、安来に生活したい、子供を産みたい、そういう安来のまちにならなければいけない。

(会長)

市民全体で盛り上げていくことは絶対必要なことだと思う。

(部長)

コメントをさせていただきたい。国も総合戦略を作っており、その中で日本国を維持していくためには 2060 年 1 億人。その中で 2.07 という合計特殊出生率が弾き出されてきている。今日、3 万人という仮定の数値をお示ししている。それは議論をしていただく中で、何らかの数値がないと議論ができないだろうと。前はそういうものがない中での議論だったので、具体的な数値をもって皆さんからご意見をいただきたいということで、3 万人という仮定の数値をもっていろいろな数値を弾いたということでご理解をいただきたい。3 万人で、委員が言われたように今の安来が維持していけるかということになると、人口減少、高齢化が進展すると地域コミュニティの維持・存続が困難になるとか、あるいは労働力の減少により経済活動が疲弊してしまうこともあるし、それによって税収減になるので行政サービスの低下、社会インフラの維持が困難になる、これは人口ビジョンにも書いてある。安来市を維持していくために本当に何万人が必要かということは手に持っていないが、一応 3 万人という数値をもってご説明をさせていただいた。3 万人がよいということではなく、私も 3 万人以上のところが当然必要だと思っているし、市長も当然そう思っていると思う。

具体的に 10 代 20 代が就職とか進学で転出していく。これは首都圏、関西圏、山陽圏にほとんど出ていく。この方たちに、いかにして将来U I ターンをしていただくかということで、学校教育のふるさと教育も重要なことと思っている。それから 20 代から 30 代で住宅環境で転出される方がおられるが、この方たちのほとんどは松江市と米子市への転出であり、2012 年と 2013 年の累計数字で松江市に 108 人、米子市に 131 人転出している。この方たちを半分でも食い止めることができれば、U I ターン 120 何人という数字は必然的に下がってくると思う。安来の中の住宅環境が悪いというわけではないと思うが、何故かその年代の方が近隣に出ていく。恐らく仕事は安来だろうが、住居を外に求められる。これをいかに食い止めていくかということが一つには重要であると思う。

それからこの委員会については、今年度で終わりではなく、委員が替わられる

ことはあるが、ずっと続いていくので、この中で都度都度皆さんのご意見を今後
も承りたい。これについてはこれが最後ではなく、5 年ごとの計画なので、その
都度見直していくということになる。当面、5 年間の活動というか、指標という
ことでご理解をいただきたい。

副会長が言われた人口ビジョンと戦略のリンクの関係で、戦略の冒頭部分は人
口ビジョンから引用した部分があり、二重になるのでその辺は工夫が必要かと思
う。それから人口増減に直接的なもの間接的なものとおっしゃいました。特に防
災のことを引いておっしゃたが、安来市も中山間地が多く、中山間地は非常に災
害が多い。そういうことがあって中山間地から平場に出たり、市外に転出される
ということもあろうかと思う。そこでやはり防災、特に中山間地域における地域
防災というのは、今の人口を維持していくためには必要なものではないかと思う。

それから当然のことながらビジョンができれば市民への周知はさせていただき
たいと思う。安来市の独自の施策、安来市の強みという意見もいただいたが、安
来の強みとしては、特に特殊鋼もあるので、当然その辺りは安来市の強みだと思
っている。子育てについても小学生 6 年生までの医療費の無料化だとかいろいろ
な部分で他市に引けを取らない、鳥取だと中学校まで高校までという言い方もし
ているが、県内でもそれなりの子育て環境は充実していると思う。ただ、住環境
については先ほど申し上げたとおり 20 代後半から 30 代の方が出ていかれると、
その辺が住環境は若干問題があると思っている。広域連携の数値の意見もあつた
が、実は今日これに載せるときにこの数値がいいものかどうか中でいろいろ検討
はしたが、一応なんらかの数値がなければいけないということで、今回はこの数
値をあてたということで再考の余地があるかとは思ふ。愛着度が低すぎるのでは
ないかという意見もいただいたが、この数値もこれを作る前段でのアンケート調
査をもとにして、今の 70 何%というのを弾いているが、今後こういう政策が進
む中で、愛着度を 80%ではなくて 100%と高めるような努力をしていきたいと思
っている。委員が言われた子供時代から安来はいいんだという刷り込みについ
ては、教育委員会の方でふるさと教育ということも実施している。ふるさと教育は
将来的に U I ターンにつながるものだと私たちは確信しており、そういう取り組
みをしていかないといけないと思っている。卒業して引きこもりであるとか、未
就職の方、そういう方について、やはり総合戦略がいいのか、総合計画の中で謳
った方がいいのか、わからない部分もあるが、取り組みはしていかなければなら
ないと思っている。

(会長)

基本目標 1 のところに出産・子育て環境の充実というところがあるが、これに
ついては医療的なことが当然あるが、医療関係について何かご意見はあるか。

(委員)

皆さんご存知のように安来市の医療の現状は安来市立病院をはじめ医師の高齢化がだんだん目立ってきている。今後のビジョンをどうしろといわれるとなかなか難しいところがあるが、若い医師を招聘し、バックグラウンドをしっかりといただきたい。安来の方でご出産をされて、元気に健やかに育って、安来のまちなかで育ってくれば一番いいと思う。現状としては、医師の高齢化は、島根県内でも安来市は高くなっていると感じている。その辺に関し、どう医師を育てていけるのかというところだ。

(会長)

産婦人科の医院あるいは病院をもう少し増やしたい、充実させたいと思えば、医師の方をもっと増やさなければいけない。一つ提案があるが、先ほど部長からご説明いただいたこの戦略会議自体はずっと続く。それなりに検証していくということではあるが、まちなかカフェとか市民の方からも意見を伺っていくことが必要ではないかと思う。今後とも市民の方の意見を聞いてそれを市政にもっていくという何等か組織立てをこの総合戦略に関連させて作っていくということ、総合戦略の一つの戦略としてやっていくのはどうかと思っている。

(副会長)

今、会長が言われたことと被るが、結局ずっと続くわけであるし、この文章を作って、どうこれを使うか使えるものにするのかが大事だと思う。まずはこの文章を市民の方に見てもらわなければいけない。それはこの文章をそのまま見せるのか、別にパンフレットみたいなものを作るのかは技術的なことがあるとは思いますが、こんな問題があるのだとか、そういったことにまず気づいてもらわないといけないので徹底的にPRしなければならない。関心を持ってもらわなければいけない。あと関心を持ってもらった上に、関与してもらう、参加してもらうということである。いろいろ目標を掲げているが、役所だけでできるものではないので、例えば労働環境で言うとワークライフバランスとか協力を求めないといけないので、可能であれば民間にやってもらいたいことなど、そんなことまで書き込めればよい。それが間に合わないとなれば、今後民間に目標にしてもらいたい・・・行えるような仕組みをしっかりと作っていくべきだと思う。もう一つ、目標、施策、事業をもっと具体的にしたいと思う。例えば、ターゲット別にみせる。若い女性に対してはこういう施策をする、子供たちにはこういう施策、安来の高校生にはこう、安来のことを知らない東京の人にはこうとターゲット別に施策、具体的な目標。安来の高校生は今何人いるので、それで何人出ていくので、1年間で何人にとどめるとかそういう具体的なことを、できないかもしれないが、目標としては持っておきたい。そうすることによって、恐らく役所の中も、実際に現場に携わる方も目標を意識して仕事をしてもらえるはずだし、市民の方としても協力す

べきものが見える。あるいはそのことによって東京の人が安来にはこんな定住策があるのかとか、これまで松江に家を建てていた人が安来に建てるとこれだけ儲かるとかいうことのPRにつながると思うので、徹底的にたかが文章だが、実効性、参加を促すという面でも、もっと魅力的な文章にしていかなければならないと思う。

(会長)

今伺って思ったのは、ターゲット別の目標、施策を持つというのは一つの目玉になるような目標設定ではないかと感じた。

予定の時間を過ぎてしまった。これで総合戦略の会議は終了したいと思う。